

MySQL 5.1.42 リリースノート（日本語翻訳）

リリースの公開状況:

- MySQL Server 5.1 は、リリース 5.1.42 から新たに以下のプラットフォームでも利用できる。
 - Mac OS X 10.6 x86/x64
 - HP-UX 11.31 IA64
 - SLES 11 x86/x64

修正されたバグ:

パフォーマンス: クエリキャッシュが断片化すると、メモリ bin のフリーブロックリストのサイズが大きくなり、クエリキャッシュの失効が遅くなる。現在は、[SELECT](#) ステートメントがクエリキャッシュのロックを待機する場合、50 ミリ秒でタイムアウトする。タイムアウト期限になると、ステートメントはクエリキャッシュを使用せずに実行される ([Bug#39253](#))。

[Bug#21074](#) も参照。

- 重要な変更: レプリケーション:** 以下の関数が、ステートメントベースのレプリケーションに対してアンセーフとマークされた。

[GET_LOCK\(\)](#)

- [IS_FREE_LOCK\(\)](#)
- [IS_USED_LOCK\(\)](#)
- [MASTER_POS_WAIT\(\)](#)
- [RELEASE_LOCK\(\)](#)
- [SLEEP\(\)](#)
- [SYSDATE\(\)](#)
- [VERSION\(\)](#)

上記の関数はマスタとスレーブで結果が異なることがあるため、ステートメントベースの形式を使用する場合、いずれも正しく複製されることが保証されない。[binlog_format](#) が STATEMENT に設定されている場合に上記の関数を使用すると、Statement is not safe to log in statement format という警告がログに記録される。[binlog_format](#) が MIXED に

設定されている場合は、上記のいずれかの関数を使用すると必ずバイナリロギング形式が行ベースの形式に切り替えられる([Bug#47995](#))。

- **パーティショニング**: サブパーティションがあるテーブルに、新しいカラムを追加できない場合があった([Bug#48276](#))。
- **パーティショニング**: ONLY_FULL_GROUP_BY SQL モードを使用している場合、パーティショントーブルからの [SELECT COUNT\(*\)](#) が失敗した([Bug#46923](#))。

この退化は [Bug#45807](#) で発生した。

- **パーティショニング**: DEFAULT CHARSET=utf8 の場合、SUBPARTITION BY KEY が失敗した([Bug#45904](#))。
- **レプリケーション**: 行ベースのロギングを使用する場合、影響を受けるテーブルがテンポラリテーブルであっても [TRUNCATE TABLE](#) がバイナリログに書き込まれ、レプリケーションが失敗した([Bug#48350](#))。
- **レプリケーション**: マスタでは NULL、スレーブでは NOT NULL と宣言されている [TEXT](#) または [VARCHAR](#) カラムを複製すると、スレーブがクラッシュした([Bug#43789](#))。

[Bug#38850](#)、[Bug#43783](#)、[Bug#43785](#)、[Bug#47741](#)、[Bug#48091](#) も参照。

- **レプリケーション**: 行ベースの形式を使用する場合、デフォルトを持たないカラムに値を指定せずにマスタで [INSERT](#) を行うと、サーバが厳格 SQL モードではなく、本来ならマスタでこのステートメントが成功する場合であっても、[Could not execute Write_rows event on table ...; Field '...' doesn't have a default value](#) というエラーでレプリケーションが失敗した。現在は SQL モードがチェックされるようになり、厳格モードが有効でなければステートメントが複製される。詳細については、[Section 5.1.8, "Server SQL Modes"](#) を参照([Bug#38173](#))。

[Bug#38262](#)、[Bug#43992](#) も参照。

- NULL 可能な [BIGINT](#) カラムと [INT](#) カラムの比較結果が一致しなかった([Bug#49517](#))。
- キャッシュの初期化が正しくないために、変換された定数値が格納されず、比較結果が正しくならない可能性があった([Bug#49489](#))。
- [YEAR](#) 値を含む比較で結果が正しくならない可能性があった([Bug#49480](#))。

[Bug#43668](#) も参照。

- サーバの再起動後に、InnoDB がテーブル AUTO_INCREMENT の値を前回使用された値にリセットしなかった([Bug#49032](#))。
- テーブルを伴うクエリを [KILL](#) で停止し、同じテーブルに対してその後 [SHOW CREATE TABLE](#) を実行すると、サーバがクラッシュした([Bug#48985](#))。
- ルーチン名で大文字/小文字が混在していると、ストアドルーチンの権限が無視された([Bug#48872](#))。

[Bug#41049](#) も参照。

- [comp_err](#) にあるエラーが原因で、Fedora Core 12 の 64 ビット版で MySQL のビルドが失敗した([Bug#48864](#))。
- 1 つの InnoDB テーブルに対して複数の [ALTER TABLE](#) 操作を同時に実行すると、表明が発生する可能性があった([Bug#48782](#))。
- 一部の INTERVAL 式によって、64 ビットシステムでクラッシュが発生する可能性があった([Bug#48739](#))。
- クエリの実行中、[OR](#) 操作に対して範囲が誤ってマージされ、不正な結果が返される可能性があった([Bug#48665](#))。
- InnoDB Table Monitor で、[FLOAT](#) および [DOUBLE](#) データタイプのレポートが正しくなかった([Bug#48526](#))。
- 行ベースのバイナリロギングで、CREATE TABLE IF NOT EXISTS *existing_view* LIKE *temporary_table* というフォームのステートメントがクラッシュした。これは、ステートメントをログに記録するときに、サーバが既存のビューをテーブルとして扱ったことが原因だった([Bug#48506](#))。
- GROUP BY WITH ROLLUP を使用し const テーブルしかないクエリでは、DISTINCT が無視された([Bug#48475](#))。
- 一部の WHERE 条件に対して、ルーズなインデックススキャンが誤って選択された([Bug#48472](#))。
- InnoDB テーブルスペースの構成で値が小さすぎた場合、または多数の [CREATE TEMPORARY TABLE](#) ステートメントが実行され、[innodb_file_per_table](#) が有効であるためにテンポラリファイルのディレクトリがいっぱいになった場合に、サーバがクラッシュし、テーブルスペースが破損する可能性があった([Bug#48469](#))。
- 範囲オプティマイザの一部が不正に初期化され、Valgrind エラーが発生する可能性があった([Bug#48459](#))。
- 不正な型キャストが原因で、クエリを実行すると大量のメモリが割り当てられる可能性があった([Bug#48458](#))。
- Windows で、InnoDB を静的リンクライブラリとしてビルドできなかった([Bug#48317](#))。
- Solaris で [mysql_secure_installation](#) が動作しなかった([Bug#48086](#))。

- *mysql_secure_installation* を実行する際に、root パスワードに複数のスペース、¥、#、または引用符が含まれていると、コマンドが失敗した ([Bug#48031](#))。
- サブクエリの内部で、MATCH IN BOOLEAN MODE 検索の返す結果が多すぎる可能性があった ([Bug#47930](#))。
- [REPLACE](#) を使用して、InnoDB テーブルの AUTO_INCREMENT カラムで以前に挿入した負の値を更新すると、テーブルの自動増分値が 2147483647 に更新された ([Bug#47720](#))。
- 1 つのセッションが [FLUSH TABLES WITH READ LOCK](#) で取得したグローバル読み取りロックを保持しており、[LOCK TABLES](#) によって 1 つのテーブルがロックされ、別のテーブルに対して [INSERT DELAYED](#) ステートメントが発行された場合、デッドロックが発生する可能性があった ([Bug#47682](#))。
- *mysql* クライアントステータスコマンドが、サーバの文字セットについて不正な値を表示した ([Bug#47671](#))。
- 5.1.x 以降の *mysql* クライアントから 4.1.x サーバに接続すると、切断の際にメモリ解放エラーが発生した ([Bug#47655](#))。
- 宣言されているスタッドプログラム変数と同じベース名を共有するシステム変数を同じコンテキストで割り当てると、クラッシュする可能性があった ([Bug#47627](#))。
- 64 ビットシステムで、*mysqladmin debug* がクラッシュする可能性があった ([Bug#47382](#))。
- [innodb_file_format_check](#) システム変数を、実行時にデフォルトの値またはユーザ定義変数の値に設定できなかった ([Bug#47167](#))。
- ARCHIVE テーブルを含む MySQL 5.0 から MySQL 5.1 へのバイナリアップグレード後に ARCHIVE テーブルにアクセスすると、*mysql_upgrade* または CHECK TABLE ... FOR UPGRADE を実行していてもサーバがクラッシュする可能性があった。

この問題を回避するには、アップグレード前に *mysqldump* を使用してすべての ARCHIVE テーブルをダンプし、アップグレード後に MySQL 5.1 に再ロードする。同じ問題は、MySQL 5.1 から 5.0 へのバイナリダウングレードでも発生する ([Bug#47012](#))。

- Mac OS X の *MySQL Preference Pane* コンポーネントは 64 ビット対応でビルドされていなかったため、[システム環境設定]アプリケーションが 32 ビットモードで再起動した ([Bug#46935](#))。
- [DELETE](#) ステートメントの IGNORE 句によって、トリガの処理中に発生する SQL ステートメントエラーがマスクされた ([Bug#46425](#))。
- 64 ビットシステムで、*--skip-innodb* が InnoDB の起動をスキップしなかった ([Bug#46043](#))。
- InnoDB Plugin に対する Valgrind エラーが修正された ([Bug#45992](#)、[Bug#46656](#))。

- 一部の `my_hash_insert()` 呼び出しで戻り値がチェックされなかった ([Bug#45613](#))。
- リテラル `DECIMAL` 値からテーブルのカラムの型を推測する場合など、`DECIMAL` 値の切り捨てによって表明違反が発生する可能性があった ([Bug#45261](#))。

[Bug#48370](#) も参照。

- `YEAR(2)` 値に対して、`MIN()`、`MAX()`、および比較の結果が正しくならない可能性があった ([Bug#43668](#))。
- 不整合の `mysql.proc` システムテーブルにアクセスしようとする、サーバがクラッシュする可能性があった。たとえば、`mysql_upgrade` を実行せずに MySQL 5.0 から 5.1 にアップグレードした後でストアプロシージャ関連のステートメントを呼び出すと、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#41726](#))。
- InnoDB のモニタ機能 (`SHOW ENGINE INNODB STATUS`、または InnoDB Monitor テーブルのいずれか) を使用すると、同時実行の環境における共有変数への無効なアクセスが原因でサーバがクラッシュする可能性があった。これは、MySQL 5.1.31 における最初の修正に対して MySQL 5.1.38 で発生していた退化の追加修正である ([Bug#38883](#))。
- Windows で `mysql_secure_installation` を実行する際に、コマンドが正しい操作に必要な必須モジュール `Term::ReadKeyroot` のロードに失敗した ([Bug#35106](#))。
- `--log-bin` サーバオプションがコンポーネント区切り文字で終わるディレクトリに設定されている場合、バイナリログファイルのベース名が空になるため、作成されるファイルには `.000001` および `.index` という名前が付けられた。`--log-bin-index`、`--relay-log`、および `--relay-log-index` の各オプションについても同様のことが発生した。現在はサーバがエラーをレポートして終了する ([Bug#34739](#))。
- 比較が型変換を必要とする定数値を伴う場合、変換された値がキャッシュされないため、変換が繰り返され、パフォーマンスが低下した ([Bug#34384](#))。
- InnoDB テーブルでパーティションを使用する際に `SHOW ENGINE INNODB STATUS` ステートメントを使用すると、無効な(古い?)テーブル名またはデータベース名のエラーがログに記録される ([Bug#32430](#))。
- 一部の Windows システムで、一時的なドライバまたはハードウェアの問題が原因で InnoDB がファイル操作時にオペレーティングシステムエラー 995 番を報告する可能性があった。現在 InnoDB は操作を再試行し、エラーメッセージに `Retry attempt is made` を追加する ([Bug#3139](#))。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の

正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。